教育研究業績書

2025年05月07日

所属： 日本語日本文学科　　資格： 教授　　氏名： 山本　欣司

研究分野	研究内容のキーワード
日本近代文学	小説の解釈，国語教材の解釈，映画の解釈，樋口一葉
学位	最終学歴
博士（文学）,修士（文学）,文学士	立命館大学大学院 文学研究科 日本文学専攻 博士課程後期課程 満期退学、2010年３月 論文提出により学位（博士）取得

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1.令和３年度前期「授業改善奨励賞」を授与された。	2021年10月11日	オンライン授業「近代文学講読Ⅰ」で、より良い授業となるよう工夫と実践に取り組んだとして、瀬口和義学長より表彰状が贈られた。
2.就活に役立つ「文章表現法」の取り組み。	2014年4月～	大日２年通年必修科目である「文章表現法」（のち「日本語表現演習」）を、ピアラーニングを取り入れた共通シラバスを導入するなど大幅にリニューアルした。 この授業を通した日文学科の取り組みは、武庫川学院「教育改善・改革プラン」に採択され、2017年12月に表彰を受けた。
3.予習の濃密化を目的とする、Eメールを活用した演習（ゼミ）授業の構築。	2012年度前期	「日本文学演習Ⅰ」（３年生ゼミ）：Eメールを用い、前期の課題作品（芥川の短編）に対する3～400字程度の小レポート（自分の感じた疑問点）を毎週提出させ、それをレジュメに仕立ててゼミ演習で使用している。他人の目に触れる緊張感から、学生は熱心に課題（予習）に取り組む。ゼミでは毎回一つの作品を、学生から事前に提出された疑問に答えながら読み進めていく。
4.文学研究と教科指導の横断的な取り組み。	2012年度前期	「表現学」（４年生）：教科書教材になっている文学作品を取り上げ、その表現や内容について論じた。対象となる教材は、小学校から高校まで幅広く、近代文学研究者の立場から、それらの教材へのアプローチの仕方を教授した。受講者には、教員志望者も多く、多くの刺激を受けたようであった。
5.メディアリテラシー教育の取り組み。	2011年度前期	「表現学」（４年生）：メディアリテラシー教育の観点から、宮本輝の小説「泥の河」・小栗康平監督による映画「泥の河」・マルセ太郎による一人舞台「泥の河」を比較分析し、それぞれのメディアの特質を理解させる先進的な取り組みを行った。
6.メディアリテラシー教育の取り組み。　学生自身のビデオ機器・パソコンを活用する技術を飛躍的に高めることを狙ったもの。	2009年度前期、2010年度前期	「芸術文化総合演習Ⅲ」（３年生）：学生自身が、ドキュメンタリーとは何かを考えながら、友人を紹介する映像作品や、津軽の職人を紹介する映像作品を作成する授業を、美術教育スタッフと共に実施した。教員の指導の下、学生自身の制作した作品自体もすばらしい教材となり、最後は制作作品に関する意見の交換を行う。
7.教科専門（文学研究者）の立場から、模擬授業形式を導入し、教育実習への動機付けを行う。	2001年度後期より2010年度後期	「日本文学史Ⅱ」（２年生）：模擬授業形式を取り入れ、毎週2、3人の学生が一人の作家を取り上げ発表する。学生は、内容面でも表現面でも長い時間をかけて準備・練習し、多くのことを学ぶ。私としても、準備段階で十分時間をかけて学生のカウンセリングを行い、支援をおこなっている。２年後期の模擬授業で、教壇に立つことの厳しさを実感することが、３年次実習への重要なステップとなる。
2 作成した教科書、教材		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1.京都学園高等学校講師（非常勤）	1995年04月から1997年03月	私立高等学校で国語科教員を２年間勤めた
4 その他		

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
4 その他		
1.大学入試センター試験 出題委員（国語）	2004年04月から2006年03月	大学入試センター試験（国語）の出題委員をつとめた

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1.博士（文学　立命館大学）学位取得（博乙第四八四号）	2010年03月	学位論文『樋口一葉　豊饒なる世界へ』を提出したことによる。
2.修士（文学）	1992年03月	所定の単位を取得し、修士論文「樋口一葉後期文学の特質―『十三夜』をめぐって―」を提出したことによる。
3.中学校教諭専修免許状（国語）	1992年03月	
4.高等学校教諭専修免許（国語）	1992年03月	
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1.高校国語教員	1995年4月1日1997年3月31日	京都学園高校で非常勤講師として、２年間にわたり国語の授業を担当した。
4 その他		
1.令和３年度前期「授業改善奨励賞」を授与された。	2021年10月11日	オンライン授業「近代文学講読Ⅰ」で、より良い授業となるよう工夫と実践に取り組んだとして、瀬口和義学長より表彰状が贈られた。
2.就活に役立つ「文章表現法」の取り組みが表彰された。	2017年12月19日	2015年度に採択された武庫川学院「教育改善・改革プラン」の事業の中から、具体的に実行され成果をあげている10件の事業のうちの一つとして、2017年12月19日に表彰を受けた。
3.大学入試センター試験 出題委員（国語）	2004年04月から2006年03月	大学入試センター試験（国語）の出題委員をつとめた

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1.Crossing the Borders to Modernity : Fictional Characters as Representations of Alternative Concepts of Life in Meiji Literature (1868-1912)（査読付）	共	2022年1月25日	Harrassowitz, Germany	編者：Köhn, Stephan / Weber, Chantal 共著者：Shion Kōno、Toshiaki Kobayashi、Timothy J. Van Compernolle、、Indra Levy、Matthew Königsberg、Massimiliano Tomasi、Stephan Köhn、Gala Maria Follaco、Makoto Goi、Martin Thomas、Chantal Weber、Frank Jacob、Hiroshi Takita、Martha-Christine Menzel、Yoshitaka Hibi、Ingrid Fritsch　全355頁。 分担：Disengaged Relationships in the Latter Writing of Higuchi Ichiyō、163～178頁。 2020年1月10日～11日、ドイツのケルン大学で行われた国際シンポジウム「Crossing the Borders of Modernity」に招聘され、英語で発表を行った。その後原稿の募集があり、投稿したところ査読の上で書籍に掲載された。 樋口一葉の小説について、ストーリーや主題に関する特徴を詳述したものである。
2.新聞から見る1923年の神戸 大阪朝日新聞 神戸附録の研究	共	2019年10月10日	関西学院大学出版会	神戸近代文化研究会 編 「第三章　喜劇のメッカ、聚楽館―神戸の大衆演劇」を執筆した。43-54頁。 共著者：大橋毅彦、永井敦子、山本欣司、箕野聡子、島村健司、杣谷英紀、大東和重 科研費基盤Ｃ「一九二〇年代における海港都市神戸の文化的通路をめぐる多角的研究」（課題番号15K02281）による研究成果の一部である。
3.『道草』論集　健三のいた風景	共	2013年9月	和泉書院	「健三と島田―「道草」試論―」の項を担当。141-156頁。夏目漱石「道草」について論じたもの。 編者：鳥井正晴、宮薗美佳、荒井真理亜 著者：鳥井正晴、宮薗美佳、荒井真理亜、上總朋子、岸元次子、北川扶生子、木谷真紀子、木村澄子、小橋孝子、笹田和子、佐藤栄作、長島裕子、村田好哉、山本欣司、吉川仁子
4.博覧会（コレクション・モダン都市文化	単	2012年06月	ゆまに書房	明治・大正・昭和（戦前）にかけて展開する国内の博覧会に関する貴重な資料の覆刻と解題、関連年表等をまとめ、解説「博覧会とい

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
76）				う夢」を付したもの。 監修：和田博文
5.樋口一葉　豊饒なる世界へ	単	2009年10月	和泉書院	「大つごもり」「たけくらべ」「ゆく雲」「にごりえ」「十三夜」「わかれ道」「われから」を対象に、さまざまな疑問を足がかりとして、複雑に絡み合った小説の細部をときほぐし、意味づけながら、樋口一葉の豊饒なる世界へアプローチを試みたもの。
6.論集　樋口一葉 Ⅳ（査読付）	共	2006年11月	おうふう	「物語ることの悪意―「われから」を読む―」の項を担当。84-107頁。樋口一葉「わかれ道」について論じたもの。 編者：樋口一葉研究会 著者：菅野貴子、橋本のぞみ、愛知峰子、笹尾佳代、戸松泉、藤澤るり、山本欣司、畑有三、田中励儀、野口碩、松下浩幸、満谷マーガレット
7.大正文学史	共	2001年11月	晃洋書房	「第十一章　近代演劇」の項を担当。179-195頁。 編者：上田博・國末泰平・田邉匡・瀧本和成 著者：上田博、國末泰平、田邉匡、瀧本和成、野村幸一郎、古澤夕起子、山本欣司、辻本千鶴、水野洋、小林孔、田口道昭、尾崎由子、外村彰
8.〈新しい作品論〉へ、新しい教材論〉へ　評論編４	共	2001年11月	右文書院	「大森荘蔵「真実の百面相」論」の項を担当。74-86頁。高校の国語教科書教材である大森荘蔵「真実の百面相」について論じたもの。 編者：田中実・須貝千里 著者：林原純生、田近洵一、阿毛久芳、幸田国広、山本欣司、鎌田均、中丸宣明、牧戸章、服部康喜、上谷順三郎、宮越勉、児玉忠、大塚美保、松崎正治
9.明治文芸館Ⅰ―新文学の機運―	共	2001年05月	嵯峨野書院	明治の森　時代人物（西郷隆盛・大久保利通・成島柳北・高畠藍泉）の項を担当。84-88頁。 編者：上田博・瀧本和成 著者：上田博・瀧本和成・桑原三郎・平岡敏夫・野村幸一郎・木股知史・水野洋・古澤夕起子・山下多恵子・森崎光子・田村修一・池田功・越前谷宏・山本欣司・橋本正志・伊藤典文・椿井里子・外村彰・村田裕和・鈴木敏司・内田賢治・田口真理子
10.論集　樋口一葉（査読付）	共	1996年11月	おうふう	「出会わない言葉の別れ―「わかれ道」を読む―」の項を担当。195-215頁。樋口一葉「わかれ道」について論じたもの。 編者：樋口一葉研究会 著者：高田知波、菅聡子、野口碩、滝藤満義、出原隆俊、愛知峰子、鈴木啓子、青木一男、満谷マーガレット、千田かをり、山本欣司、重松恵子、木谷喜美枝、吉田昌志、山根賢吉、平岡敏夫
11.作家の世界体験―近代日本文学の憧憬と模索―	共	1994年04月	世界思想社	「堀田善衛とスペイン―人間存在への凝視―」の項を担当。213-222頁。堀田善衛とスペインの関わりについて論じたもの。 編者：芦谷信和、上田博、木村一信 著者：芦谷信和、上田博、木村一信、瀧本和成、野村幸一郎、田口道昭、友田悦生、森崎光子、富澤成實、吉岡由紀彦、川島晃、山本欣司
2 学位論文				
1.博士論文　樋口一葉　豊饒なる世界へ	単	2010年03月	和泉書院	書き下ろしも含め、これまでに執筆した樋口一葉関係論文を単著にまとめたもの。和泉書院より出版ののち、立命館大学に学位論文として提出。
2.修士論文　樋口一葉後期文学の特質―「十三夜」をめぐって―	単	1992年01月	立命館大学	「十三夜」を中心に、樋口一葉後期文学の特質を探求したもの。
3 学術論文				
1.屈辱を抱えて生きる―ヘルマン・ヘッセ「少年の日の思い出」を読む―（査読付）	単	2025年2月28日	『学校教育センター紀要』第10号、武庫川女子大学　学校教育センター	ヘルマン・ヘッセ「少年の日の思い出」は、一九四七年に国定教科書『中等国語』に採録されて以来、多くの中学校国語教科書に掲載されており、近年では全ての国語教科書に掲載される定番教材である。本稿では、日本近代文学研究ではポピュラーな、作品構造や語り手、視点などの分析手法を用いながら、この教材のいくつか気になる点について見解を述べ、主題を明らかにした。
2.「海の命」との向き	単	2025年1月1	『教育科学　国語	光村図書や東京書籍の小学校６年生国語教科書に掲載されている、

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
合いかた		日	教育』901号（明治図書出版）、4-9頁	立松和平「海の命」という教材は解釈が非常に困難で、指導にあたる先生方は苦労されているようである。この難解な小説との向き合いかたや、ストーリー・主題把握の方法について「提言」を行ったもの。
3.樋口一葉「うもれ木」を読む（査読付）	単	2022年5月30日	『論究日本文学』116号（立命館大学日本文学会）、21-32頁	樋口一葉「うもれ木」に関して、明治30年に「三人冗語」で森鴎外が述べた理解が、現在に至るまで一定の影響力を持ち、通説化している様を明らかにするとともに、それらとは大きく異なる、自分なりの解釈を述べたもの。
4.孤独を癒やすということ ： アーノルド・ローベル「おてがみ」を読む（査読付）	単	2019年3月	『学校教育センター年報』4号 13-21頁	小学校国語教材「おてがみ」（アーノルド・ローベル）について論じたもの。
5.別役実「愛のサーカス」を読む（査読付）	単	2018年2月	『学校教育センター年報』第3号 39－47頁	中高国語教材である、別役実「愛のサーカス」の解釈について論じたもの。
6.「雀こ」の世界	単	2016年6月	『太宰治研究』24 和泉書院 63－72頁	津軽弁によって語られた、太宰治「雀こ」の世界について論じたもの。
7.〔調査報告〕1923年の『大阪朝日新聞 神戸附録』その１	共	2014年3月	『武庫川女子大学紀要人文・社会科学編』61巻（武庫川女子大学） 11-21頁	近代の港湾都市神戸の文化形成を、モダニズムにとらわれずさまざまな角度から研究する神戸近代文化研究会では、1923年の『大阪朝日新聞　神戸附録』について網羅的に調査した。本稿（その１）は、「雑草園」、映画、演劇の動向についてまとめたものである。共著者は、大橋毅彦（「雑草園」）、永井敦子（映画）。
8.日本近代文学研究と樋口一葉	単	2011年03月	『弘前大学国語国文学』32号（弘前大学国語国文学会）82-97頁	日本近代文学研究がこれまでたどってきた道のりと、それに連動する形で変容してきた樋口一葉研究の在り方を説明したもの。
9.作品論Ⅱ「人物に就いて」	単	2009年06月	『太宰治研究』17輯、和泉書院、233-241頁	太宰治のエッセー「人物について」について論じたもの。
10.「泥の河」論―小栗康平の世界へ―	単	2009年03月	『弘前大学教育学部紀要』102号（弘前大学教育学部） 1-9頁	宮本輝「泥の河」について論じ、あわせて小栗康平「泥の河」にもふれたもの。
11.芥川龍之介「蜘蛛の糸」を読む	単	2007年09月	『弘前大学教育学部紀要』98号（弘前大学教育学部） 1-9頁	国語教科書教材でもある、芥川龍之介「蜘蛛の糸」について論じたもの。
12.立松和平「海の命」を読む（査読付）	単	2005年9月	『日本文学』54巻9号（日本文学協会）52-60頁	小学校国語・教科書教材である、立松和平「海の命」について論じたもの。
13.「たけくらべ」と〈成熟〉と	単	2004年08月	『国文学―解釈と教材の研究―』49巻9号（学燈社） 72-82頁	〈成熟〉をキーワードとして、樋口一葉「たけくらべ」について論じたもの。
14.売られる娘の物語―「たけくらべ」試論―	単	2003年03月	『弘前大学教育学部紀要』87号（弘前大学教育学部） 11-21頁	売られる娘の物語として、樋口一葉「たけくらべ」について論じたもの。
15.「たけくらべ」の美登利	単	2001年03月	『クロノス』14号（京都橘女子大学 女性歴史文化研究所）12-13頁	樋口一葉「たけくらべ」の美登利について論じたもの。
16.樋口一葉のドラマツルギー	単	2000年11月	『枯野』11号（枯野の会）24-34頁	樋口一葉のドラマツルギーの特質について論じたもの。
17.「たけくらべ」の方法	単	2000年03月	『立命館文学』564号（立命館大学人文学会）1-27頁	樋口一葉「たけくらべ」の方法について論じたもの。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
18.「浅草紅団」論	単	1999年06月	『樟蔭女子短期大学紀要　文化研究』13号（樟蔭女子短期大学学会）33-40頁	川端康成「浅草紅団」について論じたもの。
19.後悔の深淵―「山月記」試論―（査読付）	単	1998年12月	『日本文学』47巻12号（日本文学協会）19-28頁	国語教科書教材でもある、中島敦「山月記」について論じたもの。
20.「大つごもり」を読む―「正直は我身の守り」をめぐって―	単	1995年07月	『立命館文学』540号（立命館大学人文学会）40-56頁	樋口一葉「大つごもり」について論じたもの。
21.「十三夜」論の前提	単	1995年02月	『立命館文学』538号（立命館大学人文学会）19-33頁	樋口一葉「十三夜」を論じるにあたっての前提について論じたもの。
22.樋口一葉『ゆく雲』論―「冷やか」なまなざし―（査読付）	単	1994年12月	『日本文芸学』31号（日本文芸学会）51-63頁	樋口一葉「ゆく雲」について論じたもの。
23.「十三夜」論―お関の「今宵」／斎藤家の「今宵」―（査読付）	単	1994年8月	『国語と国文学』71巻8号（東京大学国語国文学会）13－25頁	樋口一葉「十三夜」について論じたもの。
24.「にごりえ」試論―お力の「思ふ事」―	単	1992年12月	『論究日本文学』57号（立命館大学日本文学会）35-45頁	樋口一葉「にごりえ」について論じたもの。
その他				
１．学会ゲストスピーカー				
1.Textual Subtlety in the Later Writing of Higuchi Ichiyo: Interpreting Takekurabe	単	2020年1月10日	Crossing the Borders of Modernity: Fictional Characters as Representations of Alternative Concepts of Life in Meiji Literature (1868-1912)	ドイツ・ケルン大学にて２日間にわたって行われた、明治期日本文学に関する国際シンポジウムに招聘され、樋口一葉の後期テクストの特質について、英語で研究発表を行った。発表者は欧米を中心に17名（日本からは３名）。ドイツ学術振興会の助成をうけている。
２．学会発表				
1.「うもれ木」と対幻想	単	2015年11月23日	樋口一葉研究会第24回大会　於：明治大学・駿河台キャンパス	樋口一葉「うもれ木」について論じたもの。
2.信如像再検討の試み―信如はツンデレか―	単	2014年12月21日	日本女子大学文学部・文学研究科学術交流企画　講演会・新内上演　樋口一葉『たけくらべ』―生成・認知・流通―於：日本女子大学　目白キャンパス成瀬記念講堂	樋口一葉「たけくらべ」に登場する藤本信如という人物について、その人物像を再検討したもの。
3.日本近代文学研究と樋口一葉	単	2010年11月	2010年度　第51回　弘前大学国語国文学会、於：弘前大学	日本近代文学研究がこれまでたどってきた道のりと、それに連動する形で変容してきた樋口一葉研究の在り方を論じたもの。
4.「にごりえ」再考―映画「にごりえ」を	単	2008年11月08日	2008年度　日本近代文学会関西支部	今井正監督による映画「にごりえ」を補助線として、樋口一葉「にごりえ」を論じたもの。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
補助線として―			秋季大会、於：近畿大学	
5.「泥の河」論	単	2008年10月25日	韓国日本近代学会　第18回国際学術大会、於：立命館アジア太平洋大学	宮本輝「泥の河」について論じたもの。
6.「蜘蛛の糸」を読む	単	2006年7月16日	日本文学協会　第26回研究発表大会、於：東北大学	芥川龍之介「蜘蛛の糸」について論じたもの。
7.「たけくらべ」と〈成熟〉と	単	2004年6月19日	樋口一葉研究会第十七回例会、於：お茶の水女子大学	〈成熟〉をキーワードに、樋口一葉「たけくらべ」について論じたもの。
8.樋口一葉「たけくらべ」をめぐって	単	2002年07月06日	第四三回　弘前大学国語国文学会研究発表大会、於：弘前大学	美登利変貌論争を中心に、樋口一葉「たけくらべ」を論じたもの。
9.「たけくらべ」の方法	単	1998年12月12日	第十六回　阪神近代文学会　冬季大会、於：大阪成蹊女子短期大学	樋口一葉「たけくらべ」の方法について論じたもの。
10.「正直は我身の守り」―「大つごもり」を読む―	単	1994年10月08日	樋口一葉研究会 第４回例会、於：日本女子大学	樋口一葉「大つごもり」を論じたもの。
11.樋口一葉『ゆく雲』論―「冷やか」なまなざし―	単	1994年05月22日	第31回 日本文芸学会 総大会、於：甲南女子大学	樋口一葉「ゆく雲」を論じたもの。
12.「十三夜」論の前提	単	1992年06月13日	1992年度 日本近代文学会 関西支部春季大会、於：梅花女子短期大学	樋口一葉「十三夜」について論じたもの。
３．総説				
４．芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1.表現にふさわしい解釈を　芥川龍之介「蜘蛛の糸」を読み直す	単	2024年5月18日	「毎日新聞　朝刊」20頁、毎日新聞社	毎日新聞社の求めに応じ、芥川龍之介「蜘蛛の糸」や「羅生門」を例に、小説の解釈について解説したもの。
2.書評　宮脇昌一著『「小説を読む」とは､「自己を読むこと」なり【近代文学定番教材へのアプローチ】』	単	2024年1月10日	『日本文学』73-1、日本文学協会	求めに応じ、書評したものである。
3.樋口一葉：貧困、買売春、ストーカー、DV―現代社会にも通じるテーマを描いた女性職業作家の先駆け	単	2022年5月3日	公益財団法人ニッポンドットコム・Webページ、字数3500字 https://www.nippon.com/ja/japan-topics/b07226/	生誕150年に合わせて、樋口一葉の生涯と代表作の解説を依頼され、執筆した。Yahoo!ニュースでも配信され、公開日当日に約3万のPVがあった。英仏中など７カ国語に翻訳され、世界に向けて発信されている。
4.学会印象記：「十三夜」再考	単	2022年4月	『日本文学』（日本文学協会）32～33頁	「日本文学協会第76回大会　文学研究の方法の再検討」についての印象を述べたもの。
5.書評：真銅正宏著『数奇の場所を文学	単	2021年11月15日	『日本近代文学』（日本近代文学	学会からの依頼により、真銅正宏著『数奇の場所を文学化する: 宮本輝の小説作法 PART2』について書評したもの。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
化する：宮本輝の小説作法 PART2』			会）174頁	
6.事典：『尾崎紅葉事典』「文武叢誌、女学講義、世界之日本」の三項目を担当した	共	2020年10月	翰林書房、全446頁（分担）325・291・300頁	編者：山田有策・木谷喜美枝・宇佐見毅・市川紘美・大屋幸世 明治を代表する作家・尾崎紅葉をめぐる事項について論じたもの
7.事典：『東北近代文学事典』「丹野正、中村嘉良、名和三幹竹、錦三郎、芳賀秀次郎」の五項目を担当	共	2013年06月	勉誠出版、全845頁（分担）351・389・400・404・418頁	編者：日本近代文学会東北支部・『東北近代文学事典』編集委員会、著者：日本近代文学会東北支部会員以下、多数につき省略 東北地方に関係のある「丹野正、中村嘉良、名和三幹竹、錦三郎、芳賀秀次郎」について論じたもの。
8.事典：『京都近代文学事典』「半井桃水、小林久三、入江為守、国崎望久太郎」の四項目を担当	共	2013年05月	和泉書院、全428頁 （分担）264・143・53・126頁	編者：日本近代文学会関西支部・京都近代文学事典編集委員会、著者：日本近代文学会関西支部会員以下、多数につき省略 京都府に関係のある「半井桃水、小林久三、入江為守、国崎望久太郎」について論じたもの。
9.書評：増田裕美子・佐伯順子共編『日本文学の「女性性」』	単	2013年05月	『会報』17号（日本近代文学会　関西支部）12頁	学会からの依頼により、増田裕美子・佐伯順子共編『日本文学の「女性性」』について書評したもの。
10.書評：塚本章子著『樋口一葉と斎藤緑雨―共振するふたつの世界』	単	2012年01月	『日本文学』61巻1号（日本文学協会）76-77頁	学会誌からの依頼により、塚本章子著『樋口一葉と斎藤緑雨―共振するふたつの世界』について書評したもの。
11.事典：『兵庫近代文学事典』…「中島らも、木谷恭介、原秀則、平山繁夫」の四項目を担当	共	2011年10月	和泉書院、全376頁 （分担）243・132・273・279頁	編者：日本近代文学会関西支部・兵庫近代文学事典編集委員会、著者：日本近代文学会関西支部会員以下、多数につき省略 兵庫県に関係のある「中島らも、木谷恭介、原秀則、平山繁夫」について論じたもの。
12.書評：戸松泉著『複数のテクストへ　樋口一葉と草稿研究』	単	2010年11月	『日本近代文学』84集（日本近代文学会）273-276頁	学会誌からの依頼により、戸松泉著『複数のテクストへ　樋口一葉と草稿研究』について書評したもの。
13.事典：『滋賀近代文学事典』…「深田久弥、木村至宏」の二項目を担当	共	2008年11月	和泉書院、全426頁 （分担）305・306・123・124頁	編者：日本近代文学会関西支部・滋賀近代文学事典編集委員会、著者：日本近代文学会関西支部会員以下、多数につき省略 滋賀県に関係のある「深田久弥、木村至宏」について論じたもの。
14.書評：趙恵淑著『樋口一葉作品研究』	単	2007年07月	『日本文学』56巻7号（日本文学協会）70-71頁	学会誌からの依頼により、趙恵淑著『樋口一葉作品研究』について書評したもの。
15.書評：峯村至津子著『一葉文学の研究』	単	2006年11月	『日本近代文学』75集（日本近代文学会）321-324頁	学会誌からの依頼により、峯村至津子著『一葉文学の研究』について書評したもの。
16.事典：『大阪近代文学事典』…「木谷恭介、小林井津志、中島らも、三田誠広」の四項目を担当	共	2005年05月	和泉書院、全339頁 (分担)122・209・270・272頁	編者：日本近代文学会関西支部・大阪近代文学事典編集委員会、著者：日本近代文学会関西支部会員以下、多数につき省略 大阪府に関係のある「木谷恭介、小林井津志、中島らも、三田誠広」について論じたもの。
17.事典：『樋口一葉事典』…「第二部　項目編」のうち、「穴沢清次郎、小宮山天香、関如来、原良造、樋口くら、広瀬お若、広瀬七重郎、藤田屋、松永政愛、丸茂文良、三浦るや子、宮崎三昧、望月	共	1996年11月	おうふう、全525頁 （分担）136・193・231・294・297・310・313・325・326・327・331・339・343・347頁	編者：岩見照代、北田幸恵、関礼子、高田知波、山田有策、著者：多数につき省略 樋口一葉に関係のある「穴沢清次郎、小宮山天香、関如来、原良造、樋口くら、広瀬お若、広瀬七重郎、藤田屋、松永政愛、丸茂文良、三浦るや子、宮崎三昧、望月米吉、山下直一、吉田実」について論じたもの。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
米吉、山下直一、吉田実」の計十五項目を担当				
６．研究費の取得状況				
1.科研費基盤研究Ｃ「一九二〇年代における海港都市神戸の文化的通路をめぐる多角的研究」（課題番号15K02281）	共	2015年4月～2019年03月	独立行政法人　日本学術振興会	2010年に発足した神戸近代文学研究会（大橋毅彦、永井敦子、山本欣司、箕野聡子、島村健司、杣谷英紀、大東和重）での活動に対して、平成二七～二九年度科学研究費補助金を得た。代表は箕野聡子。

学会及び社会における活動等	
年月日	事項
1.2024年4月1日から2026年3月31日	日本近代文学会　関西支部　『関西近代文学』編集委員、２年目は編集長
2.2016年4月から2017年3月	日本近代文学会 関西支部 運営委員長（事務局）
3.2015年7月から2020年7月	阪神近代文学会　会長
4.2012年04月から現在	阪神近代文学会 運営委員（兼・学会誌編集長）
5.2012年04月から現在	日本近代文学会 関西支部 運営委員
6.2009年04月から2011年03月	日本近代文学会 東北支部 運営委員
7.1999年04月から2001年10月	阪神近代文学会 運営委員
8.1997年04月から2002年03月	日本近代文学会 関西支部 運営委員
9.1993年04月から現在	日本文藝学会　所属
10.1992年11月から現在	樋口一葉研究会　所属
11.1992年04月から現在	日本近代文学会　所属
12.1992年04月から現在	日本文学協会　所属